

北

きた

の

自

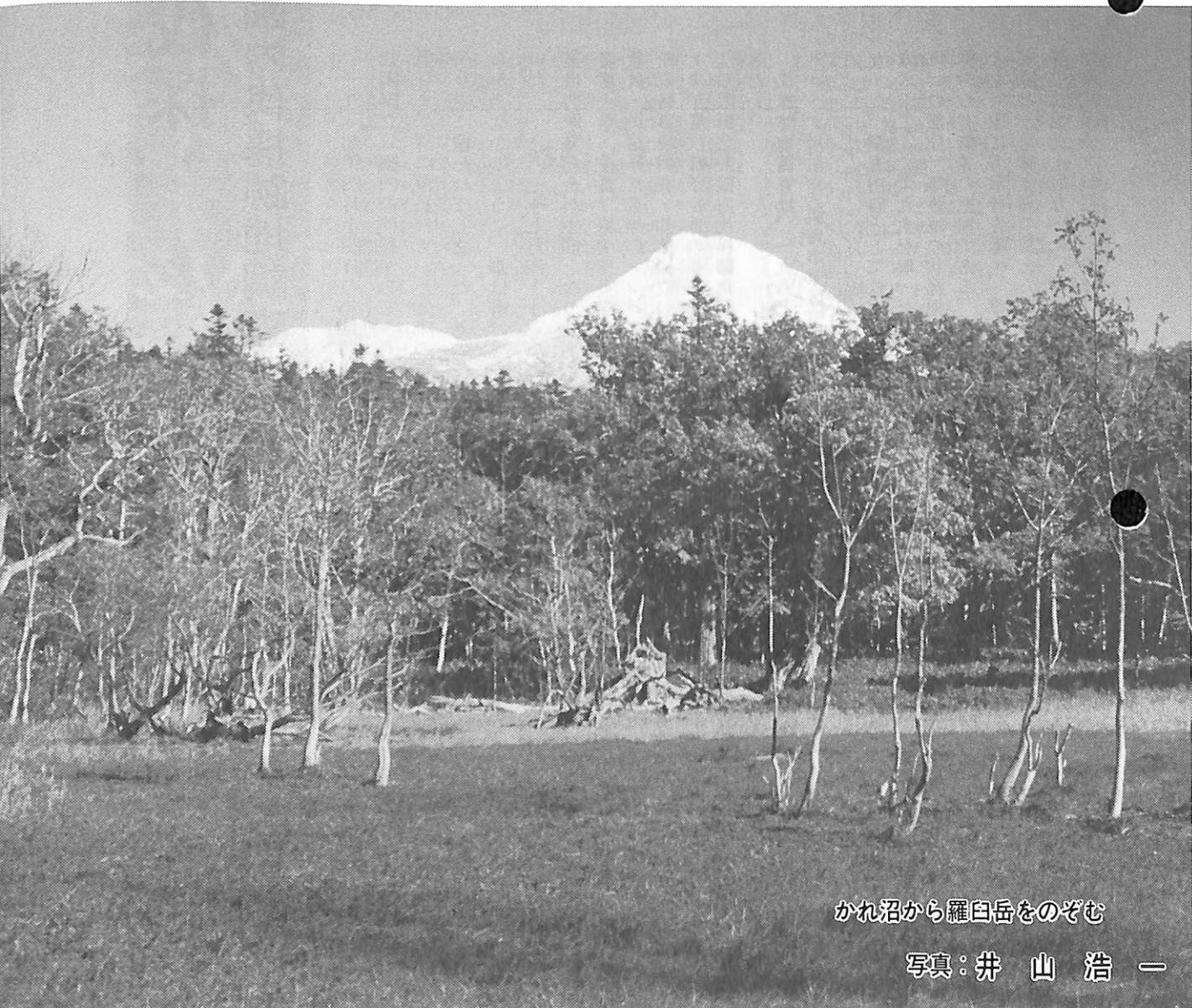
し

然

ぜん

第  
32  
号

1987年8月27日



かれ沼から羅臼岳をのぞむ

写真：井山 浩一

# ずさん・知床伐採 知床国立公園内伐採跡地調査から



沢の中に放置された末木枝条

一九八七年四月十四日の北見営林支局による知床国立公園内の伐採から三カ月が過ぎ、伐採当日まだ雪に覆われていた知床の森も今はすっかり緑に覆われてしまった。あの伐採騒動などなかったかのようには、森は静けさを取り戻していた。一九八七年七月四〜十三日にかけて北海道自然保護連合が主催となり北海道大学・帯広畜産大学・酪農学園大学の学生と会社員・高校教員・民宿経営者等のメンバーにより、知床横断道路事後調査・知床国立公園内伐採跡地調査・来年度伐採予定地の視察を行なった。ここでは知床国立公園内伐採跡地調査について触れてみたい。

伐採跡地調査は、一九八七年七月四〜九日にホロベツ川左岸・斜里事業区三一九林班内、七月十二日にホロベツ川右岸・三一八林班内で行なった。調査内容としては、伐採木・放置木・支障木・末木枝条(丸太を取ったあとの残り〔幹や枝〕の部分)等跡地の状況把握、林床植生・後継樹の有無等の把握である。任意に選んだ伐採木を対象に方形桿を取り、樹冠投影図・側面図・支障木と営林支局の植えたポット苗の位置や数等の図面化も行なった。調査主眼は、いわゆる学術的調査ではなく、今まで北見営林支局の説

明してきた施業内容通りに伐採が行なわれていたかどうか、実際の施業実態を検証するところにある。前回(四月十六・十七、五月三〜五日)行なった二回の調査データも含め、伐採地のほぼ全域をくまなく調査することを前提とした。今回調査期間中はほぼ全日通して雨または曇りという天気が続く、辛い調査となったが、予定通り満足できるデータを集めることができた。

結果としては、北見営林支局の説明するような極めて弱度の択伐施業などというきれいな言葉はとてもないということである。今回、方形桿をとって調査したなかでも、五〇×三〇㎡の方形桿内に伐採木が一四本・伐採による支障木(胸高直径六cm以上)が三五本・合計四九本という皆伐に近いような場所(斜里事業区三二八林班ボンホロ山南斜面)も見つけられた。施業自体のズサンさも目に余るものがある。切り倒された木が腐っているため、そのまま放置されている木。腐ってもいないのになぜか放置されている木。枝を払い・寸法取りをし撤出できている丸太。途中でノコ目を入れておきながら、倒さずに放置してある木(こうなると枯れるのを待つだけである)。沢のなかに投げ捨てられている大量の末木枝条(営林支局の施業内容には「末木枝条等が沢等に流失しないよう注意し、末木枝条等の整理を行なう」とあったが)。計画にないトドマツの大量の伐採・搬出。伐採作業中におこしたと見られる焚火の跡(国立公園内での焚火は禁止されている。しかも樹林帯の

中なので問題は大きい)。支障木にしても、前回までの調査では伐採木一本につき平均二・九本だったのに対し、今回をも含めた調査結果では平均四・〇本となった。これは胸高直径六cm以上のものだけで計算した結果である。さらに、直径六cm未満の稚樹や低木の支障木も多く、場所によってはこれらの木々がチェーンソーにより何十本も刈り払われている。これらは営林支局の説明するところの次代を担う後継木のはずである。これらをも含めた支障木の数はいったいどのくらいになるのか見当もつかない。このように奥の目目に触れる機会の少ないところほど施業が乱暴でひどい状態にある。奥に行けば行くほど、調べれば調べるほどひどくなっていく。ここは本当に国立公園なのだろうか、目を疑いたくなるような光景であった。

施業内容には「必要に応じてミズナラ等の人工下種・ポット苗の植栽等により更新の促進を図る」とあったが、実際ポット苗を植えているのは伐採地入口の数か所の伐採木切株周辺に限られている。本当に更新の促進を図ろうとするならば、他にも植えなければならぬ所は沢山あるはずである。真剣に更新を促進するつもりがあるだろうか。この状態では、多くの報道陣に囲まれ行なったポット苗の植栽は、実体的ないPRとしかいいようがないだろう。

今回調査中に斜里事業区担当営林署員二名が、一日だけわれわれに同行してきた。二人とも気さくな人柄だったため話が弾み、一休みの立ち話から坐り込んでの論議になった。山業の

話からウルシの対処法、そして伐採施業のことに及ぶにいたり、前述のような「ズサンな施業」のことを一つひとつ例をあげて聞いただしてみた。「へー、そんなところがあるんですね。まだ奥まで行ったことがないので知らなかった。今度ちゃんと見に行かないといけないな」と意外な答えが帰ってきた。われわれが告げる「ズサンな施業事実」に一つひとつ驚嘆の声をあげるばかりである。なんと地元営林署員でさえ伐採跡地が今どうい状態なのか知らないのか。このようなことでどうして国有林の適切な管理など行なえよう。

今まで伐採地の調査を行なってみて感じたことは、北見営林支局の説明する施業内容と事実とが余りに矛盾しているということである。これは実際に現地に入ってみれば一目瞭然である。ポット苗にしてもそうである。人目につくところしか植えていない。今の国有林野行政に對し不信任が高まるなか、なんとか国民の理解を得ようと必死になっているのが林野庁や各営林支局自身であるはずなのに、なぜこのような矛盾が出てくるのだろうか。ましてや、これ程まで論議を呼んだ知床国立公園内での伐採である。せめて施業ぐらには、支局として誠意を見せるべきであったのではなからうか。そんなところがみじんも感じられない伐採跡地のさまであった。本当に国有林は任せられるのだろうか、これでは国民の国有林野行政に対する不信・不安は益々募るばかりである。

目下この調査データを整理しまとめる作業を行なっているが、八月下旬には調査結果をまとめた報告書を出す予定である。伐採跡地で調査した地点すべてとはいかないが、今後毎年継続して調査を続け、跡地の変化を見ていきたいと思う。日本でも少ない原生的姿をとどめた貴重な森林を持つ知床国立公園で、再び同じ過ちを繰り返さないよう願わずにはいられない。

(井山 浩一)



切ったはいいが、中が腐っていて  
放置されたミズナラ

# ズタズタにされる日高山脈

## 日高中央横断道路調査から



ナナシノ沢出合、工事現場

二億五千万年から一億八千万年にかけて生成された日高山脈は、カール・モレーンといった氷河地形が発達し、生きた化石・ナキウサギ、ヒグマ・エゾシカ・クマゲラ・カラフトルリシジミ・ダイセツタカネヒカゲなど多くの生き物のくらしの場でもあります。あまりにも険しい地形・気候からかこには手つかずの自然がそのまま残されています。針広混交の自然林、広く豊かな大自然がパノラマのように展開しています。夢とロマンの山それが日高です。

### 日高山脈はいま

日高は人々の目を避けるようにヒソソリとしかし着実に開発の魔手にむしばまれ続けています。山脈の西日高側では北海道電力による電源開発（水力ダム）が一〇カ所を越え、無秩序な林道がミミズのようにはい回っています。林道の多くは山側が大きく削られ沢には土砂が投げ込まれ、その面積数百メートルに及ぶ所も。国定公園内国有林では今でも小班皆伐が行われています。

東の十勝側では急峻なかけを削りとり函状の狭い沢をぬうように工事用道路が延び、いたる所に砂防ダムがつくられています。さらに札内川では札内ダムの建設が始まろうとしています。

道路による開発も四十五年に開通した日勝道路（国道二七四号線）につき、六十四年開通をめざし開発道路浦河―大樹線の工事が急ピッチに進められています。

一九八四年十月十五日、日高中央横断道路（開発道路静内―中札内線）が多くの反対の声の中着手されました。南北一四〇キロ・東西四〇キロの日高山脈中央部をぶちぬくこの道路は、日高山脈えりも国定公園内の山岳道路でもありません。

低地から見る日高の山は褶曲山脈特有のやせ尾根が美しい山容を型づくり、多くの支稜を東西に張り出し屏風を幾重にも重ねたように見えます。今でも登山者には憧れの山です。

さらに大規模林業園開発事業のなかで、日高山脈の西側山麓を南北に縦断する大規模林道平取―目黒線が着手されています。

これまでもっとも白い部分の多かった日高の地図は急テンポに塗りかえられようとしています。知床・大雪同様に日高山脈の文化的価値をより原生自然の形で次代に引き継ぎたいと願っているのですが――。

### 林道・横断道路調査から

連合では工事着工前から地質調査・林道調査を行ってきましたが、着手後の三年前からは年二回、六月と九月に定期的に実施しています。調査地点を定め調査用紙に記録し写真におさめています。林道などをつくる時に削り取られる斜面（法面）の崩壊状態、緑化復元の状態、沢への土砂投棄状態、伐採状態、自然崩落



林道の崩落による土砂を沢に投棄

の状況、道路建設状況を調べています。

私たちが出す調査結果は、知床横断道路もそうであるように五年・十年単位でまとめます。結果を出すには早いのですがあまりのひどさに書かすにはいられません。

自然崩落の箇所にはさほど変化は見られませんが崩落面積は拡大しています。箇所によっては一年に倍にまで広がって二百メートル以上落ちています。

法面の崩落は最もひどく六〇度角・場所によっては九〇度かくで削られている山側の斜面。ガラガラともろい地質を示すかのように崩れ続けています。その土砂は全てブルドーザーで沢に投棄。よって沢は土砂の山。川幅が少しずつ狭まっています。法面を安定させるために牧草の吹き付けやジャ籠（長方形の金網に石をつめたもの）を積み上げてはいますが失敗。去年秋には保っていたのですが融雪期に崩壊しています。牧草の吹き付けも同様です。急斜面でかつ地質がもろいことを示しています。法面全体にネットをかけている所もネットをやぶり崩落しています。

林道は高密度にひかれ、今でも小班皆伐が行われています。

道路工事は橋脚が二箇所のみ。予算の付き具合が思わしくないのか、工事そのものが難しいのかさほど進んではいません。心臓部ともいえる未開削部分、標高五四〇メートルまではかなり時間がかかるものと思われま。

今後も地道に調査を続け、心臓部に入れさせない活動を展開したいと思います。

（事務局）

### 取り扱い書籍案内

- 知床を考える：本多勝一編：2,000円
- 坂本直行作品集：京都書院：6,800円  
故坂本直行さんの画集。新刊
- 地球号のアンセルモ：ツル・カメ：1,000円  
環境問題をマンガでわかりやすくまとめる。
- 自然観察ハンドブック・思索社：2,000円
- 指標生物：思索社：2,000円
- 野外における危険な生物：思索社：2,000円  
ご希望の方は事務局まで。送料250円と書籍封筒代100円を同封のうえ。

### 知床グッズ

- 知床問題を広げるためのいろいろ。益金は知床募金に入れ保護活動に使われます。
- シール絵ハガキ：1枚 100円  
七枚のシール付ハガキ
  - 写真ハガキ：1枚 70円
  - テレホンカード：1枚 800円  
シマフクロウのデザイン
  - パッチ：1個 300円  
シマフクロウとミズラナの2種類
  - 知床エイドテーマ曲  
カセット：500円  
ご希望の方は事務局まで。送料別。



### 知床募金にご協力を！

知床募金も底をついています。伐採跡地調査・次年度予定地調査など調査費も連合の一般会計の持ち出しとなっています。継続的活動をする上で資金が必要です。さらに調査報告書・知床QアンドAの作成などの出資もあり事務局はアップアップ。

連合の資金も弱くそろそろ限界。ご理解のうえご支援をお願いいたします。

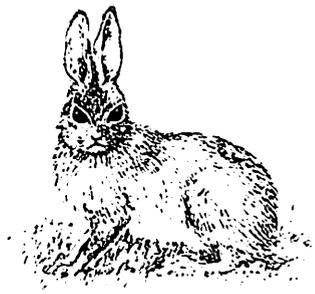
郵便振替 小樽6-18005・知床募金

### 立木買い取り運動

ナショナルトラストの変形版として、来年度伐採予定木を立木のまま買い取ろうと始めた運動も4カ月がたちました。現在700万円を越えました。

伐採の純利益分を出そうということですので、今年度伐採利益からして目標は2千万円。多くの人たちに運動を広げながら「切らないで」という声を大きくし、Bブロックの伐採を止めましょう。

目標までさらに前進を！  
パンフレットがあります。活用して下さい。  
1口・1万円を現金書留で事務局まで



# 狙われる大雪山国立公園

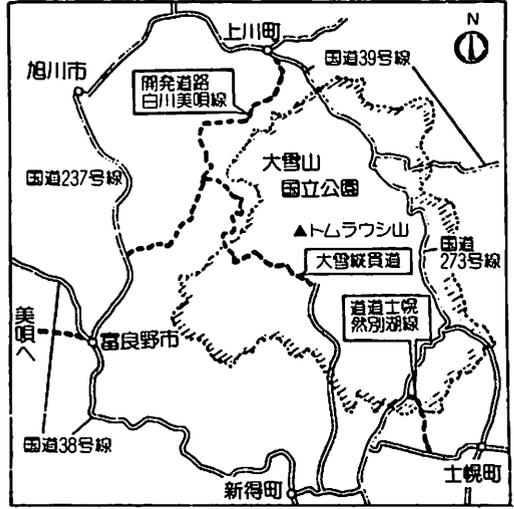
北海道は日高山脈によって東西に、大雪山連峰で南北に分けられています。十勝岳・白雲岳・黒岳・忠別岳・トラムウシ・オプタテシケ・ニベソツ・石狩岳などいくつものピークをかかえる大雪は昭和9年・国立公園に指定されました。広い大地は多くの動物の住みかとなり、6月下旬から7月はいたる所お花ばたけ。雪渓が消えるとすぐチングルマが咲き、コマクサ、エゾコザクラと可憐な乱舞。この大雪が今、狙われています。

14年間眠り続けた大雪山縦貫道路計画、士幌高原道路、森林伐採、西武グループを中心としたリゾート開発などなど。知床同様、せめて国立公園だけでも無傷で次代に伝えたいものです。

## 復活した大雪山縦貫道路計画

昭和四十八年に取り下げとなった大雪山縦貫道路計画(道道忠別―清水線)が、旭川開発建設部作成の「冠(環)大雪山国際リゾートゾーン建設」―ヘルシー緑の帯―開発プロジェクトに動脈として盛り込まれました。このプロジェクトは昭和六十四年から七十四年まで総事業費二千六百億円をかけて大雪山山麓一帯に点在するリゾート地を結び一大観光地をつくらうというものです。

大雪山国立公園内及び隣接地には、セゾングループの狩勝高原サホロリゾートや占冠村の石勝高原トマムリゾート、国土計画の豊良野リゾート、同美瑛町のジャパンヘルシーゾーンなど、計画も含め十一のリゾートゾーン開発がありま



す。これらを有効に連動するためには道路が必要。そこで縦貫道路というわけです。縦貫道路を除く核となる開発事業は、国営公園事業・旭川空港伸長事業・開発道路白川美瑛線があげられています。

大雪山縦貫道路は、美瑛町から十勝連峰オプタテシケ山(二、〇一二)を貫通し新得町トムラウシに抜ける延長百十五キロの計画です。すでに林道が造成されているものの心臓部ともいえる東大雪の中心部は手つかずのまま。計画の三分の一が国立公園に入ることから十四年間眠り続けてきました。

昭和四十年代は公害が大問題となり、合わせて自然環境の破壊が国民の関心を集める時代でした。高度経済成長・列島改造と日本経済が異常なまでに背伸びしたことを考えれば当然の結果です。自然保護運動も尾瀬に続き大雪山縦貫道問題が国民世論を巻き起こしました。環境庁が厚生省から独立したことも手伝い、自然環境保全審議会公園部会(林修三部会長)でも計画の是非が論ぜられ、「不許可」の方針が出されました。しかしこの方針が発表される寸前で北海道開発庁は自ら「取り下げ」を打ち出したのです。それが昭和四十八年秋のことでした。

林部会長談話では「国立公園などに道路を新設する場合、原則として公園利用の観点や経済、社会的観点などから、その道路がぜひ必要であり、他にこれに代わる適切な手段が見いだせないことが前提とされなければならない」とし、その上に四条件が二重のワケとしてはめられま

した。現在「林談話」は生きています。

私たちは大雪山国立公園内山岳道を認めることはできません。計画廃止まで全力で取り組みます。

次号でこの問題は特集します。

## 士幌高原道路

大雪縦貫道路に続き幻の観光道路とされた道士幌―然別湖線が浮上しました。この計画は中心部二・六キロを残し、昭和四十七年以来十五年間工事が止まっていたものです。七月の道議会で横路知事が実質ゴーサインを出したことから是非をめぐる論議が再燃しています。

士幌高原道路は、士幌町から大雪山国立公園内の東ヌブカウシ山(一、二五一)の北側をぬけ然別湖に至る道道です。予定ルートには生きた化石のナキウサギが多く生息する他、低標高にもかかわらずコマクサ・シヤクナゲ・エゾツツジなどの高山植物群落が形成されています。まさに野生動物・植物の宝庫といえます。未開発部分はこの宝庫をぬけようとしているのです。

この地域には他にも国道があり、わずかの時間短縮をはかるために多大な自然破壊を生もうとしています。地元の「然別湖の自然を考える会」を核に全国的世論を起す準備に入っています。

## 国有林伐採

知床・日高同様ここ大雪でも国有林伐採が行

なわれています。択伐(択き切り)と言いますが小班皆伐を行う所も多く―数字の上では択伐―部分的ハゲ山をつくり出しています。林道も安易に沢沿いに造成され大雨・融雪期には沢に土砂が流入する事態を生んでいます。然別湖周辺ヤンベツ川ぞいはその典型です。

然別湖北岸に注ぐヤンベツ川は道の天然記念物に指定されたオシヨロコマの生息水系です。さらにオシヨロコマを食糧源としているシマフクロウも生息が確認されている地域です。ここで平均一八名のトドマツ・エゾマツの伐採が行なわれています。林道からの土砂はヤンベツ川を通り然別湖へと流入します。貴重な野生鳥獣と水系を守る上からも伐採を中止しなければなりません。そのための活動は地道に続けられています。手遅れになる前に――。

## リゾートと名の植民地開発

前に述べましたように公園内及び隣接地には国土計画・セゾンの西武グループをはじめ本州大手資本が触手を伸ばしています。かつての単発観光と違い総合リゾート開発が特徴です。面積も膨大でスキー場・ゴルフ場・テニス・キャンプ・カルチャー・スクールなど自然を食いつぶすだけで飽き足らず、文化まで買い取ろうというものです。

北海道全域のリゾート開発については別号で特集します。

(田中明子)

# 国有林の管理

主伐・種々に利用できる時期に達した立木を伐採することである。間伐と異なる点は残存樹木の育生を伴う伐採であること。

除伐・育生対象樹木の生育を防げる他の樹木を切り除く伐採方法、この方法は人工林、植栽木の枝葉の状態を見ながら、回を重ねて行う作業である。

保育・樹木を植えてから伐採するまでの間に、植樹木の成長を補ない良好な森林を造成するために下刈作業や、除伐作業等、樹木の育生に必要なさまざまな作業の総称である。

保安林・森林法の目的は、法第一条で、この法律は、森林計画、保安林その他の森林に関する基本的事項を定めて、森林の保護増養と森林生産力の増進とを図り、もって国土の保全と国民経済の発展とに資することを目的とする。

保安林の指定は、法第二五条の定めるところにより指導される。

保安林種類は一六(林野庁資料S59・31)本号は、水源かん養保安林について記述し、順次掲載いたします。

面積 国有林 三、〇八九、一四一 ha  
民有林 二、七七八、五三三 ha  
合計 五、八〇七、六七八 ha  
降雨を地下に浸透させ、地表流量を減少させ河川流量の調節、洪水調節、濁水緩和、土壌の流出防止等、多くの機能と効果をもっている。

# 北の仲間たち

## クマガエラ

キツツキの仲間というのは、なかなか愛敬があつて親しみやすい。アカゲラやコゲラが木のあちこちをつつきながら、梢の間を見え隠れする様子は、実にかわいらしい。だが、クマガエラがいきなり目の前に現れたらどうだろう。かわいさよりも、驚きと、わずかな畏怖すら覚えるのではないだろうか。カラスほどの大きさのこの鳥は、その羽の色もカラスのように漆黒である。頭の上には、燃えるような羽毛のつており、ひととき目立つ（雌はこが小さいので識別できる）しかし、表情は温かな感じをたえる。決して「森の主です」という顔をしていない。どちらかというと、鳥の中でもかなり無表情な部類だと思ふが……

およそキツツキの仲間は、どうも鳴き声が冴えない。さえずりの腕など待ち合わせしていないばかりか、その声はおせじにも美声とはいえない。しかし、クマガエラの「キョツ、キョツ」というひととき大きな声を聞くと、自分が北の山の幽谷深山にいらることを思い出させてくれる。

しかし神様は、キツツキ達にはさえずりのかわりに、木を叩いて音を出す技術を与えたのだ。人間がかってにドラミングと名付けたその行為は、なわばりを主張するためのもので、立派にさえずりの代わりを果している。人間の感覚でいうなら、森には

なくてはならない音といえようか。

もちろんクマガエラのドラミングは、豪快の連続音は、実に心地よい。彼等は、木を調べていい音がする部分を見極めていて、むやみに叩いているのではないらしい。

キツツキ類は一部を除いて、木に寄生する虫を食べることによつて、害虫を駆除する役目を果たしている。彼等が取る虫の量はかなりのものだが、クマガエラの場合その体格を考えると、想像を超える量の虫が餌になっているはずだ。

人間が手をつけて、森の中の伐採木をよく始末しないと、害虫が発生しやすくなるという。ただでさえ少ないクマガエラが生息する森は乱開発により、しだいにせばめられている。心ならずも餌が豊富になつても、クマガエラの生活が脅かされては、何もならない。

天然記念物の指定も名ばかりという気がしなくもない。北海道を代表するクマガエラへの関心は、もう少し高まってもいいようにおもふのだが……（文・カット・吹田則明）



# 新刊紹介

「森なしには生きられない」

奥本 大三郎編著

作家、哲学者、写真家、林業家など様々な職業の人達が語る、森へのそれぞれのラブコール？を集めたエッセイ集。全編を「水」「虫」「鳥」「木」に分けて読めるのが読みやすい。うらやましい体験だけでなく、共感してしまふところがたくさん。

（朔風社 一六五〇円）

「風が吹くとき」

R・ブリッグス著 小林 忠夫訳

絵本とはいえないながら、反核をテーマにしているところがまず驚き、しかも、キノコ雲や死人の山などの描写は一切なし、核戦争に巻き込まれた中年夫婦の会話にも、「戦争反対」「核爆弾をなくせ」などのお説教的な言葉は出てこない。二人の日常的な会話が、むしろじわじわと恐ろしさを訴える。「大人の絵本」というべきか。現在アニメ化が進行中。

（篠崎書林 一四〇〇円）

「森と水の経済学」

福岡 克也著

タイトルは固苦しそうだが、森の在り方、森の未来など様々な問題を、実にわかりやすく説いてくれる。森林の危機は世界的視野で見なくてはならないことを、「昭和七十五年までに四・四億ヘクタールの森林が地上から姿を消す」という数字で訴える。環境教育の確立という著者の言葉には、単なる道徳のレベルを超えた感覚が現代の人間には必要であることを痛感させられる。好著である。

（東洋経済新報社 一五〇〇円）

# 声……

今回の強行伐採に対する怒りの声と立木買取り運動への参加と励ましの声がたくさん寄せられています。

京都周辺には歴史的建造物等が多く、その付近は草木一本切れることも禁止されています。知床原生林は考え方によっては、国宝・重文以上に「国の宝」であると信じています。絶対に守らなければならない財産でもありません。これ以上の人間の驕りはきつと罰が当たると思っています。（京都市 男性）

防衛費で何億もの無駄使いをしているが、戦闘機の片翼だけでも知床の森林が救えるのでは。（大阪 男性）

身のまわりの緑を少しでも増やそうと努力しています。「人間の都合で自然を破壊するな」といいたい。（京都 16歳 高校生）

自宅周辺も山や森が多いが、山と道路をつけ動物達が「すみか」を追われている。人間は野生動物と棲み分けをして、互いに尊敬しあって生きるべきだ。（京都府 宇治市 男性）

自然環境、開発先行の行政を認めてきたのはわれわれであり、われわれの自然に対する認識、思い入れの足りなさ由です。自然破壊を認めてきた以上、

残された数少ない自然を守ってゆくことは、われわれの責任です。

しばらく闘病生活を送っていましたが、現在は完治しつつあります。今、自然が本当に美しいなとしみじみ実感しています。（栃木 26歳主婦）

欧米やアフリカでは、国立公園というものは自然をそのままの姿で保存するのが原則であり、公園内の樹木の伐採や狩猟は禁じられています。一方、日本では監督官庁であるはずの林野庁の役人の手によって大々的に伐採されるとは恥かしいことです。（埼玉 男性）

全林野組合の一員です。木々がいかに私達にうるおいを、安らぎを与えてくれるかは一番知っているつもりですが、組織として運動に協力できないことが残念です。（北海道 在住）

あれ程、自然保護団体の方たちや全国の人々が「原生林を伐らないで」という思いを無視して世の中が選挙でバタバタしている間に、裏側でアツという間に伐り出しを執行したことにたいして心の底から憤りを感じます。（大阪府豊中市 女性）

今の自分達を見てはいけない、何百年先のことを考えて……（大阪市 女性）

午来さんの町長選。やはり斜里町民は我等に望みを叶えてくれました。（札幌 男性）

# ネットワーク

## 水保30年全道巡回展

五月に引き続き六月八日、松橋勇蔵一人芝居。九日・映画「水保病―その30年」「海盗り」。十日・映画「不知火海」。二十八日・映画「水保病―その30年」「水保の甘夏」「医学としての水保病―三部作」。七月一日・パネルディスカッション。二日・映画「公害原論」「水保一揆」と続く。五・六・七と三カ月水保月間と思われるほど。公害の原点「水保」は進行形であり、水保大学設立運動・資料館づくり・みかんづくりなど多様な広がりをみせている。

## 87真夏の反核祭

泊原発に火を入れるな。87真夏の反核祭は、八月一日泊村堀株海水浴場が開かれた。今年で五回目。来九月にも試運転が初まろうという緊張の中、現地岩内町はじめ室蘭・小樽・札幌・帯広・旭川・天塩・幌延・豊富さらに東京・九州から二百人が集う。工事現場の見学は北海道電力に拒否されたが、樋口健二さんの講演・ライブコンサート・参加者一時間アピール。「ハーフ・ライフ」野外上映・キャンブファイアと盛り沢山。翌二日はリポ

ンメッセージと人間の鎖・葬式デモと盛り上がる。「原発なくてもええじゃないか」「牛乳があつぶない。野菜があつぶない」と一つになった声。岩内原発の写真に喪服に僧侶姿・鐘を鳴らしてと完べきにちかい。そのまま泊原発を葬り去りたい。北海道には原発は一つもないのだから。

## 死の灰はいらない・カムイノミ

八月六日、幌延で核廃棄物貯蔵施設に反対するカムイノミが行なわれた。旭川の川村力子トアイン記念館館長の川村兼一さんを中心に八時十二分に始まる。広島に原爆が投下された時間である。原発を含め核関連施設も原爆も同じであることからこの日となった。先住民族であるアイヌ（人間という意味）が北海道に核を持ち込ませたくないという意志を神に祈る。あいにくの雨だったが一時間ほどで終わる。

同日午後には、道議会エネルギー対策特別委員会の議員団が幌延現地入りした。誘致賛成・反対派の陳情を受けた後、すでに終了したボーリング調査地の視察を行なう。議会としては初めてのことだがその結果はどう出るのだろうか。道民の多くが望むように「ノー！」と一言を期待して。

# 活動の記録

(5月17日～8月20日)

## 活動の記録 (5月17日～8月20日)

- 5月17日 ○編集会議
- 5月18日 ○水俣30年巡回展実行委員会
- 5月20日 ○札幌の自然を守る会設立
- 5月25日 ○北の自然No.31納品・発送
- 5月29日 ○道央地区勤労者山岳連盟の知床学習会講演  
(田中)
- 5月31日 ○日弁連の知床伐採跡地調査同行(田中)  
○日弁連から知床伐採について質問を受ける
- 6月1日 ○水俣展実行委
- 6月2日 ○記者会見・知床  
○反原発岩内キャンプ実行委
- 6月4日 ○岡村昭彦報道写真展実行委  
○札幌の自然を守る会会議
- 6月5日 ○小田実講演会実行委
- 6月8日 ○水俣展・松橋勇蔵一人芝居
- 6月9日 ○水俣展上映会
- 6月10日 ○水俣展上映会
- 6月14日 ○共産党国会議員団知床伐採跡地調査・懇談  
会(田中)
- 6月15日 ○水俣展実行委
- 6月16日 ○反原発岩内キャンプ実行委
- 6月17日 ○然別湖周辺国有林伐採について帯広営林支  
局交渉(瀬川・田中)  
○然別湖の自然を守る会と懇談
- 6月18日 ○同上現地調査
- 6月20～21日 ○日高中央横断道路定期調査
- 6月23日 ○水俣展実行委
- 6月24日 ○札幌の自然を守る会会議
- 6月25日 ○小田実講演会実行委
- 6月28日 ○水俣展上映会
- 6月30日 ○水俣展上映会、資料展  
○反原発岩内キャンプ実行委

- 7月1日 ○水俣展パネルディスカッション
- 7月2日 ○水俣上映会
- 7月3～11日 ○知床伐採跡地調査、Bブロック視察
- 7月14日 ○反原発岩内キャンプ実行委
- 7月15日 ○札幌の自然を守る会会議  
○小田実講演会実行委
- 7月17～18日 ○森のセミナー(定山溪)
- 7月20日 ○知床バッジ納品
- 7月21日 ○記者会見(大雪・知床)  
○反原発岩内キャンプ実行委
- 7月23日 ○小田実講演会実行委
- 7月24日 ○大雪山縦貫道路計画について旭川開発建設  
部と交渉(瀬川・田中)
- 7月27日 ○大雪山縦貫道路計画・士幌高原道路につい  
て、十勝自然保護協会・然別湖の自然を守  
る会等と懇談(田中)
- 7月29日 ○反原発岩内キャンプ実行委
- 7月31日 ○岩内でキャンプ準備
- 8月1～2日 ○反原発岩内サマーキャンプ
- 8月3～7日 ○釧路キャンプ参加(井山)
- 8月4日 ○岡村昭彦報道写真展実行委
- 8月6日 ○幌延で核廃施設誘致に反対するカムイノミ
- 8月7日 ○サロベツ湿原視察
- 8月8日 ○編集会議
- 8月9～11日 ○第4回日高セミナー・日高林道調査
- 8月12日 ○小田実講演会実行委
- 8月14～18日 ○知床Bブロック調査(井山)(北大自  
保研に合流)
- 8月17日 ○岡村昭彦報道写真展実行委
- 8月18日 ○岩内キャンプ実行委
- 8月19日 ○知床を考える会と懇談(北見にて田中)
- 8月20日 ○藻琴山スキー場計画予定地視察、地元団体  
と懇談(東藻琴にて田中)

## 編集後記

○八月も半ばを過ぎるともう秋の雲。“あつ  
い”と言える日の少ない夏でした。路傍  
にツリガネニンジンが澄んで映えます。ヒ  
マワリはうーんと背伸びし、アオイはこの時  
とばかり輝いています。ちなみにアオイの  
ことを子どもたちは“トットグサ”とか  
“ニワトリグサ”と言って鼻の頭に付けて  
遊びます。ふるさとの香り・トットグサ。  
○会報の遅れが目立ちます。本当にすみませ  
ん。次号は頑張って九月発行・大雪山縦貫  
道路計画特集です。この一冊で昭和四十八  
年計画取り下げの経緯から問題までをまと  
めます。

○それにしても知床・大雪・日高と次から次  
と出てくること。もうお手上げ。と言っ  
ている間に次は阿寒国立公園内の藻琴山スキ  
ー場計画。東藻琴村と東急の第三セクター  
とか。北の自然No.三十四号で報告します。  
北海道は今、本州大手観光資本による新植  
民地時代に入ろうとしています。

(田中明子)

一九八七年八月二七日

編集発行 北海道自然保護連合

代表 瀬川 潔

事務所 札幌市東区北二三条東一丁目

堀江ビル2F

電話(011)七四二一三一六一(代)

振替口座 小樽一四〇七一

印刷 北海道機関紙印刷所